

尾瀬

第19号

尾瀬の自然を守る会

年頭にあたつて

謹賀新年

三年峠を通り観光道路反対運動を機に発足した本会も今年で十年目を迎える。その間の瀬駐車場建設問題、し尿污水排水用パイプライン問題、分水問題など、次々と尾瀬の自然をおびやかす事柄がおこった。これらに対して本会は自然を守る立場を堅持し、活動を続けて来た。最近に至っては奥鬼怒温泉郷と大清中の岐林道を結ぶ観光道路問題がふたゝびクローズアップされている。尾瀬の現実を見るとき、十年前と比べて決して良い方向へ向っているとは考えられない。確かにゴミ持帰り運動などの成果により見た目にはゴミのない観光地にはなったようだ。入山者の踏み跡による湿原の破壊も関係者の努力で部分的には修復されている。しかし尾瀬に通ずる各登山口の自動車道は着々と

尾瀬の自然を守る会、昭和56年計画表

- 1月
 - 2月 1日(日) 大井ふ頭・野鳥を中心とした自然観察会(対象一般)
 - 3月 1日(日) 自然保護指導員のための室内研修会
 - 4月
 - 5月 3日(日)~5日(火) 自然保護指導員のための「雪の尾瀬自然観察会」
 - 6月 6日(土) 夜~翌日曜超早朝にかけ、ゴミ持ち帰り運動のためのゴミ袋配りおよび、夜行入山者への尾瀬の自然保護アピール
 - 7日(日)~8日(月) 自然保護指導員のための、「尾瀬現地研修会」(養成講座ではありません)
 - 7月 4日(土)~6日(月) 奥忍沼湿原視察会(対象一般)
 - 19日(日)~20日(月) 燐ヶ岳観察会(対象一般)
 - 8月 14日(金)~17日(月) 第4回尾瀬自然保護指導員養成講座
 - 9月 19日(土)~20日(日) 至仏山観察会(対象一般)
 - 27日(日) 第4回尾瀬自然保護指導員養成講座室内講座
 - 10月] この頃に、十周年記念事業を予定
 - 11月]
 - 12月
- 上記計画は都合により多変更されることがあります、1・4・7・10月に発行される機関誌で正式に連絡されます。なお、各月の例会は、原則として第1金曜日に、渋谷の東京山手教会で行っております。例会の案内は最終ページを御覧下さい。

整備され、当初湿原保護を目

的として渡し始めた木道も尾瀬全域に整備され、足を全くよこさずに核心部まで入れるようになりつつあることは喜ぶべき姿ではない。入山者のモラルの低下と相まってますます俗化の方向に進んでいる。これらの現状を少しでも認識させ、入山者に尾瀬の自然の貴重さを知らせるために始め

たのが「尾瀬自然保護指導員養成講座」である。三回の講座を通じてすぐれた人材を得、新たな陣容をととのえ、我々は尾瀬保護のために決意を新たにして活動を進めたいと思っていますので、会員諸氏の変わぬあたかい御声援をお願い致します。
(内海広重)

今後の会の運営について

今年昭和五十六年は、本会発足十年目に当り、一方ではそれを期に記念事業をとの声もあります。事尾瀬に限ってみれば、昭和四十六年八月の、時の初代環境庁長官の現地視察以来、一応車道工事はストップの形をとっています。しかし、当時の計画は形を変えて次々に実現されているようです。沼山峠までの道は完成し、一般道としての使用に供され、三平下までの道も、すでに車道としての機能をもつています。そして、今、奥鬼怒スバーリ道が着々と建設されています。

さらには、尾瀬地区内でも、入山者のマナー、山小屋からの排水・汚水、ゴミ問題と未解決の事柄が山積みされています。

それに対し、こういった問題に対応する会の態勢は極めて未完なものでした。そこで、会結成十年目をメドに、会運営において幹事制を導入し、会の基本計画は、年二～三回開かれる幹事会で決定し、年はじめにその計画すべてを発表してゆくことによって、

会活動の円滑化をはかつてゆきたいと思います。ついでには、ここに会活動計画（一ページの表）および、幹事とその役割分担表を掲載致します。

また、例会においては、毎回担当者を決め、テーマを設定して、そのテーマにそった話題を中心として、その月の報告、伝達を行ってゆきたいと思います。毎月のテーマは、機関誌の最終ページに載せられますので、そちらを御覧下さい。

幹事および役割分担表

代表	岸 好人（会社員）
幹事	太田 和（主婦・事務局担当）
	内海 広重（高校教諭・事務局担当）
	松田 美代子（会社員・会計担当）
録担当	武 繁春（公務員・記録担当）
市川 英夫（会社員・群馬支部長兼任）	河内 輝明（高校教諭・編集担当）
阿部 秀利（高校教諭・編集担当）	

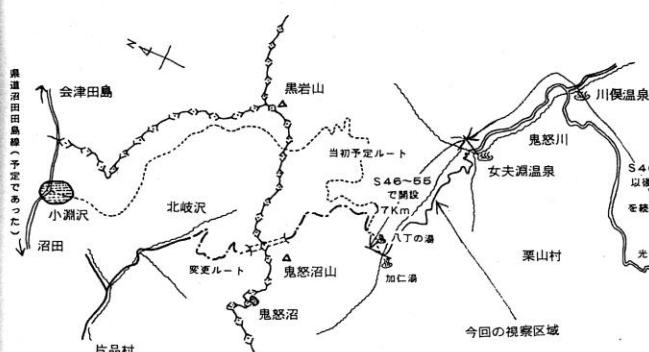
音奥鬼怒スバーリ道現地報告

幹事	八木 幸市（高校教諭員）
同	丸山 正四郎（元公務員）
同	波戸場 秀幸（小学校教諭）
同	高井 昭（公務員）
同	伊与久 洋子（小学校教諭）
同	松村 幸雄（高校教諭）
同	横山 隆一（学生）

その工事の現状
去る十一月二十三・四の二日間に渡り、奥鬼怒スバーリ道工事現場の視察が、現地案内菅保典史氏（奥鬼怒自然を守る会）の御指導で、参加十一名をもって行われました。

同林道については、前号（会報第十八号）に詳しく出しているので、説明の重複はさけるが、今回視察を行った範囲について、若干の解説を補っておきます。

今回徒歩にて視察を行ったところは、女夫淵温泉より、奥鬼怒温泉郷加仁湯付近（現在まで道路開設の終っているところ）までの、延長約七キロの区間で、昭和四十六年より、もうすでに四十億円以上の投資（？）をしているところでは（はじめの予定では、総工費、つまり、群馬県側と道がつながっても、約三十八億円しかからないはずであった）。



音奥鬼怒スバーリ道

大方の部分は昨年までに開設され、今年度分は、加仁湯付近のほんのわずかな部分であるため、路面はかなりおりついており、昨年分、および今年度分工区のところで法面工事（写真1・2のように、斜面に金網を張り、その上に土と木片くずと草の種子をま

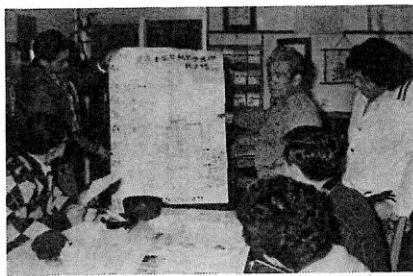


写真3



写真1



写真2

今回参加のメンバー

せたものを吹きつける工法)や、砂防ダム・排水溝工事が行われているところでした。

いずれにしても、ブナ帯からオオシラビソ帯に移り変わる急斜面に開設された道路などで、その削り跡は痛々しく、

かなりの遠方からもはつきりと見てとれるものでした。

なお、帰路には、日光の自然を守る会の植木方平氏を御自宅に訪ね、同会の今までの活動状況等をお伺いした(写真3)。

タヌキかキツネの暮らし

いフンをつけた。野猿の親子が警戒気味に食事をしてい

た。積雪であれば、さまざまな動物たちの足跡が、リズミカルな模様となつてみられ

るにちがいない。工事中の車道は当面の終点である八丁湯のすぐ手前まで完成していた。

今日も工事は進められていく。パワーショベルが採土していく。生コン車がやってきた。発電用のモーターがうなづいている。針葉樹と落葉樹の混交林にボコッとした空間、そこが車道だった。

法面が異様に黒く、そしてちょうど苗代のように芽ぶいている。すぐに謎が解けた。法面に金網をかぶせ、黒土と

凝固剤とカヤ類の種子をませ

あわせたものをふきつけたものだつた。もうすでに金網が併用するという、いかにも湯治場という風情である。この温泉郷にむけて、今ちやくちやくと車道工事が進められている。そして、この車道はさらに尾瀬中ノ岐林道への接続をめざしている。

砂は、わりあい現場から運び出されている、と思ったのはつかのまで、谷を大きく埋めて放置された個所があつた。「残土置場」と看板があったが、置場というよりは捨場・あるいは廃棄場とした方が正確解のような気がした。一回谷を埋めた土砂を回収して現場から運び出すようなことは、まずはありえない。

この車道工事をみてとくに感じたことは、工法が巧妙になつていて、工法が巧妙に

奥鬼怒に思う

造花を加えたような感じであつた。このような造花をみせられて満足する人がいたら、それはもう不幸としかいいようがない。

ひっそりと湯けむりが立ちのぼる秘湯は、そろそろ冬をむかえる。春がくれば、この温泉場は車の騒音につつまれるだろう。もし車道がのびてゐるだらう。鬼怒沼山を越えることがあれは、この温泉郷や鬼怒沼、尾瀬は観光ルートのうちの一通過点となるにちがいない。現在でさえよくみかける「うわ」とかのままで、谷を大きく埋められた個所があつた。

工事のために掘削された土砂は、わざわざ現場から運び出され、その工法であった。

の工法であった。

の工法は車道途中から行われていた。前半の部分はコンクリートをふきつけただけで、その車道工事が進められてゐる。そして、この車道はさら尾瀬中ノ岐林道への接続をめざしている。

タヌキかキツネの暮らし

いフンをつけた。野猿の親子が警戒気味に食事をしてい

た。積雪であれば、さまざまな動物たちの足跡が、リズミカルな模様となつてみられ

るにちがいない。工事中の車道は当面の終点である八丁湯のすぐ手前まで完成していた。

今日も工事は進められていく。パワーショベルが採土していく。生コン車がやってきた。発電用のモーターがうなづいている。針葉樹と落葉樹の混交林にボコッとした空間、そこが車道だった。

法面が異様に黒く、そしてちょうど苗代のように芽ぶいている。すぐに謎が解けた。法面に金網をかぶせ、黒土と

凝固剤とカヤ類の種子をませ

あわせたものをふきつけたものだつた。もうすでに金網が併用するという、いかにも湯治場という風情である。この温泉郷にむけて、今ちやくちやくと車道工事が進められてゐる。そして、この車道はさら尾瀬中ノ岐林道への接続をめざしている。

参加者名簿

(K・M)

岸好人、阿部秀利、町田恵子、高井昭、市川英夫、松田美代子、伊与久洋子、飯塚忠志、丸山正四郎、河内輝明、菅原典史、内海広重

陳情書

ここに載せた「陳情書」は前文で紹介した植木方平氏ら日光の自然を守る会が、奥鬼怒スバーリ道反対のために、

奥鬼怒地域における動植物の保護について

昭和五十五年十一月十九日

栃木県文化財保護審議会委員

森 谷 憲
久保田 秀夫
田 中 正
栃木県知事 船田 讓殿

昭和五十五年十一月に、栃木県知事先に提出したもののが全文です。

に我々は栃木県文化財保護審議会委員として、純學術的見地から同地域の動植物を保護して頂くよう特別の御配慮を賜りたく陳情致します。

植物

栃木県内の奥鬼怒地域は栃木県はもちろん、日本でも数少ない動植物の宝庫であり学術上、厳重な保護を必要とするところであります。しかし最近では同地域に近接して自然林の伐採が進み、大形道路が建設され、各種の観光施設ができるなど開発によつて著しく存在を危くしております。

更に最近では同地域を通つて群馬県尾瀬またはその隣接地に通ずる大型山岳道路を建設しようとする計画があると聞きます。もし、このような道路が建設されるならば同地域の動植物の生存を著しく危険に晒すものであります。ここ

奥鬼怒地域には高山性の植物が多く、中でもハクセンナズナは他県では、二千五百m以上の高山に生育しますが、本地域では千二百m以上から発見されます。この他、キヌガサソウ、オサバグサなどの高山植物も群落を作つており真に貴重なものであります。

また日本では群馬県の一ヶ所だけに発見されているジヨウシュウトリカブトも、本地域ボなど日本でも重要視されていいる昆虫が多い地域である。

本地域には国の天然記念物



会員簿

ここに挙げた名簿は、昭和五十五年十二月五日までに、昭和五十五年分の会費納入のあつた方々のものです。

安達又雄 阿江ゆきゑ 阿部透利 阿左見正起 青木安弘

赤松稚枝 青地農 秋山敏子

新井義昌 天野一男 安部井

雅子 荒井一 安藤孔一 新

井敬茂 五十嵐謙 市川英夫

今井善之輔 飯野とり子 池

田稻夫 岩沢俊夫 石田肇

伊与久洋子 石野清子 伊堀

たか 石弘之 石川庸子 石

田豊子 石島芳郎 狩野ダイ

伊藤文子 飯塚忠志 和泉建

夫 梅沢和夫 宇野卯之助

白井潤 浦野輝夫 内海広重

上田紗代子 内倉勲子 宇原

秀昭 梅山克敏 内山重三

梅山久夫 太田和 太田大森

大野利夫 小高正美 大原祐

子 大沼正雄 坪田敏雄 大

森武昭 大手秀男 小形おさ

小川正紀 岡本豊子 小野木

砂江 太田康夫 落合倉吉

大石武一 太田政明 大河原

幸雄 大金美保 大平美智

大沼秀樹 金田平 神田美年

辺溝 川村カウ 河内輝明

名簿

ここに挙げた名簿は、昭和五十五年十二月五日までに、昭和五十五年分の会費納入のあつた方々のものです。

木村憲司 岸好人 京極実

久保田米郎 軍司秀峰 黒田

安太郎 熊谷瑞枝 国安俊夫

黒川洋平 児玉芳郎 小坂允

子 小森景子 小寺久子 小

林幸子 小林邦声 紺野綾子

後藤延子 小暮市郎 後藤良

子 佐藤静子 定形和衛 佐

々木明雄 佐藤長弘 沢浦つ

ね 佐藤晋 佐川大作 斎藤

晋 佐々木隆 佐原香 沢浦

下城茂夫 志村勝美 鈴木利

つね 椎名宏子 新藤政之助

鈴木誠 杉村佳子 須藤志成

木千佳夫 須藤志成幸 杉岡

敏弘 鈴木猛 杉木茂 鈴木

憲太郎 鈴木靖 須藤賢一

博 鈴木正子 鈴木彰典 鈴

木千佳夫 須藤志成幸 杉岡

上美幸 曾根広子 高間徳子

田野内栄一 武繁春 高橋武

子 高野均 竹島静子 田中

盛夫 田代保雄 高井昭 武

田直子 武下喜一 高橋智子
高橋民 田中定良 高井富二
田村勝治 田村数雄 千明康
弘坪井シヅ 塚越博幸 寺
島昭彦 寺内一雄 富永ムツ
ヨ等々力徹郎 等々力英美
留高謙 富田健一 利根川峰
子 外所富一 長岡康夫 中
村晃 中島和 中村健二 中
田喜直 永峰ふみ 中沢寛
中島和人 行川清 嘴嶋里枝
奈良由美子 二瓶義春 西村
すが子 西田はつ 二上兵一
西沢彰 沼田真 沼沢文子
糸子 早川秀則 長谷川義孝
波戸場秀幸 檜垣宏子 平井
良一 平野茂 平野長英 藤
森初江 藤巻銀三 藤尾節子
藤井雅之 文屋恵美 藤原純
子 堀田静子 細川幸勇 堀
内猛貴 星壱 堀米義徳 星
伸英 星恵子 松田きよ子
松村登志雄 前田寛 松田美
代子 丸山正四郎 松岡克之
松村幸雄 町田恵子 宮下佳
彦 宮内穂積水口昌司 水
野好 丸岡尚隆 牧野正吉
水沼高志 松本友二 村長利
根朗 明治大学自然保护研究
会 森脇美武 茂木栄山

大井自然観察会へのお誘い

敵しき冬もあと一步で終りを告げる二月、カモたちはもうすっかり春の姿です。枯れたアシ原の中にはモズのはやにえが残されてるかもしません。まだ寒い季節ですが北国へ帰る前の冬鳥たちと、澄んだ青空に会いに行きませんか? 暖い身仕たくでは是非いらして下さい。雨天中止
日時:昭和56年2月1日(日)
場所:大井第七公園内草原集合:モノレール流通センター駅前 Am 10時・解散同Pm 3時
交通:①モノレール・浜松町より15分 ②国電大森駅よりバス・京浜島循環15分 ③京浜急行平和島駅よりタクシ-5分
料金:Am 9:30発 160円
よりバス・京浜島循環15分 110円
料金:よりタクシ-5分 380円

持ち物:筆記観察用具・昼食

ビニール袋・手袋・雨具・防寒具・凶器類・長グツが便利
内容:生物の冬越し、冬鳥と海辺の生き物たちのくらし
参加費:資料代として五〇〇円
担当・横山隆一
※当日は近くの大井野鳥公園でも観察を行ないます。



十一月例会報告

七日 於山手教会

報告(一)「尾瀬」十八号の発行
(二)十一月十六日の群馬支部例会出席の件(岸・内海・河内出席)
(三)奥鬼怒スバーリン道視察下見(八木・河内)

会出席の件(岸・内海・河内出席)
(三)奥鬼怒スバーリン道視察下見(八木・河内)
(四)年賀ハガキ印刷图案等々
(五)五年度分会費請求
(六)五六年度年間行事計画
(七)各行事に対する補助金他
(八)出席 内海、早川、松田、
(九)阿部、河内、太田政)

指導員研修室内講座案内

尾瀬自然保護指導員となられた六九名の方々を対象に研修会を実施します御参加下さい。

期日 三月一日(日)十時より三時まで 場所 東京農大第一高校視聴覚教室 講師 筑波大学生科学系講師三島次郎先生 演題「生態学の立場から自然保護を考える」会費

資料代五〇〇円 参加申込みハガキで東京農大第一高校生物教室内海宛(〒166世田谷区桜

三一三三一一)なお午後は尾瀬の諸問題について座談会を行ないます。

太田和、松村、武、八木、岸、阿部、河内、太田政)

十二月例会報告

十二月五日 於山手教会

報告(一)奥鬼怒スバーリン道視察下見(八木・河内)
(二)年賀ハガキ印刷图案等々
(三)各行事に対する補助金他
(四)五六年度年間行事計画
(五)各行事に対する補助金他
(六)会出席 内海、早川、松田、
(七)阿部、河内、太田政、松
(八)武、阿部、松村、丸山、千賀、
(九)菅又、早川、塚越、椎名、横
(十)山、館山、小野木)

入会のおすすめ

「尾瀬の自然を守る会」は日本における自然保護運動の発祥地・原点である尾瀬において、自然保護を考え、学び、行動する"市民の会"あります。昭和四十六年八月尾瀬を通過する国際観光ルート沿田一

田島線建設反対運動の際に發足し、その後幾多の困難を経ながら会員の努力によって、運動は続けれられております。

尾瀬を愛する皆さん、小さな力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるように大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまで運動にご参加下さい。そして、も心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

会の活動 ○会報「尾瀬」の発行 ○自然観察会 ○自然保護指導員養成講座 ○その他、自然保護に関する調査研究、講演会など。
発行 ○自然観察会 ○自然保護指導員養成講座 ○その他、自然保護に関する調査研究、講演会など。
保護指導員養成講座 ○その他、自然保護に関する調査研究、講演会など。
の林道工事の現状と、現車道の利用状況
の利用状況
(出典 太田和、太田政、松
田、内海、岸、河内、八木、
武、阿部、松村、丸山、千賀、
菅又、早川、塚越、椎名、横
山、館山、小野木)

入会の方法 ○年会費(一月
一十一月)二〇〇〇円を事務局へ、会の主旨に賛同する方はどなたでも入会できます。

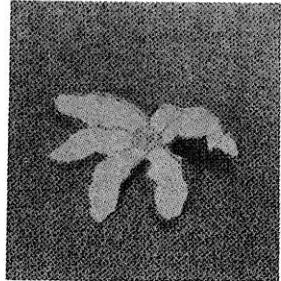
会の事務局 〒108 港区三
田一十一一四五一〇八(大田和方振替・東京6-138023)

会費値上げのお知らせ

風物誌

国鉄運賃が上り、印刷費が上り、そして郵便料金までが上りました。会費一五〇〇円を維持してきた本会も、この値上げラッシュの中では、機関誌の発行もおぼつかなくなってしまいました。よつてこの度やむ会費値上げに踏み切りました。諸事情御考察の上よろしく御協力下さい。

なお、昭和五十六年一月一日よりの本会会費は、毎年十二月末日までの年額二〇〇〇円となります。また、会のシンボルバッヂのニオイコブシも、同年同月同日より、一個当たり三〇〇円とさせていただきます。郵便料は、五個毎に一〇円とさせていただきます。会費・バッヂとも送り先は会事務局までお願い致します。



新春とは名ばかり、これから更に厳しい寒さにさらされ尾瀬の植物達は、葉を落とし、又地上部を枯らして樹幹も凍る数ヶ月を耐え貫かなければならぬ。そんなブナ林の中、緑の葉をたたえたまればならない。エゾユズリハの常緑広葉低木である。彼らに零下十数度の酷寒は・・・。

雪は寒さの象徴であるが、時としてそれは防寒を意味している。雪積が五〇cmを越えると地表面は零度を下らないと言ふ。雪国のまくら、

冬山での雪洞である。3mを越す尾瀬の雪の下、彼らは倒臥し低木型をとることによつて寒さから身を守つている。近種の高木が暖地に分布しているが、これは適応力をもつものに許された繁栄への知恵であろうか。

例会案内

○一月の例会 一月九日(金)

於 東京山手教会、午後六時半より九時頃まで、テー

マ(二月一日)の大井ふ頭自然観察会へ向けて「鳥の渡りと湿地の保護」(スライド使用)係 横山隆一(電〇三一四二〇一八八一八)

○二月の例会 二月六日(金)於 東京山手教会、午後六時半より九時頃まで、テー

マ(二月一日)生物の越冬、係 太田政明(電〇三一三七七一〇二九)○三月の例会 三月六日(金)於 東京山手教会、午後六時半より九時頃まで、テー

マ(二月一日)の大井ふ頭自然観察会へ向けて「鳥の渡りと湿地の保護」(スライド使用)係 横山隆一(電〇三一四二〇一八八一)

○四月の例会 四月三日(金)於 東京山手教会、午後六時半より九時頃まで、テー

マ(二月一日)尾瀬の歴史、係 岸好人(電〇三一七〇四一三九三)

○五月の例会 五月三日(金)

於 東京山手教会、午後六時半より九時頃まで、テー

マ(二月一日)湿原の生態学、係 武繁春(電〇四六五一八一一)

○六月の例会 六月三日(金)

於 東京山手教会、午後六時半より九時頃まで、テー

マ(二月一日)渋谷駅

編集後記

年四回の定期発行というこ

とになってはじめての発行です。相も変わらず記事集めには苦労します。みなさん、どんなん積極的に投稿をお願い致します。

さて、今年は本会発足十年目に当る年、会としても記念事業を考えているようですが、みなさんの御協力を。

例会

渋谷山手教会において、

午後六時半より



エゾユズリハ

新旧の葉の入れかわりが著しく目立ち、子が成長してから親が譲るのにたとえられ、新年的飾り物に使われると言う。春浅くまだ雪の残る林中に、緑濃い葉と淡紅色の葉柄は、初々しくも逞しい。

冬山での雪洞である。3mを越す尾瀬の雪の下、彼らは倒臥し低木型をとることによつて寒さから身を守つている。近種の高木が暖地に分布しているが、これは適応力をもつものに許された繁栄への知恵であろうか。

入会申込書	年	月	日	年
1年分会費 2,000円を添えて申込みます。				16
名前(ふりかな)				男 女
現住所				
T()				
M()				自宅電話()
S()	年	月	日生	
勤務先				電話()

尾瀬	第十九号
連絡先	東京都世田谷区深沢
発行日	昭和五十六年一月
発行者	岸好人
編集者	河内輝明
連絡先	五一二二一一(岸方)
発行日	電七〇四一三九三
発行者	電七〇四一三九三